

2024年9月期  
第1四半期  
決算補足説明資料

ティアンドエス株式会社  
(東証グロース 4055)  
2024.4.12



T & S  
Technology & Service

ハイライト	p. 3
決算概要	p. 4
営業利益の状況	p. 6
カテゴリー別売上高	p. 7
取引先別売上高	p. 8
主要取引先動向	p. 9
エンジニアの状況	p. 10
損益計算書	p. 11
貸借対照表	p. 12
トピックス	p. 13
業績予想進捗率	p. 15
株主還元	p. 17

(今期のテーマ)

## 次のステージへ

### 1 過去最高売上高を継続

売上高	: 8億 37百万円
営業利益	: 1億 38百万円
経常利益	: 1億 38百万円
当期純利益	: 1億 00百万円

### 2 DXソリューションが堅調。半導体ソリューションの回復は2Qから

- DXソリューションカテゴリーの売上高は前年同四半期比**13.0%増**。その他取引先からの受託開発案件の受注が拡大したことや主要取引先からの受注が安定して推移した。
- 半導体製造産業の生産調整が終了。  
半導体ソリューションカテゴリーの売上高は2Q以降に回復の見込み。
- AIソリューションカテゴリーの売上高は前年同期比**2.4%増**。その他取引先からの受注が安定して推移した。

### 3 新規人材採用倍増。持株会社化への再編も進行中

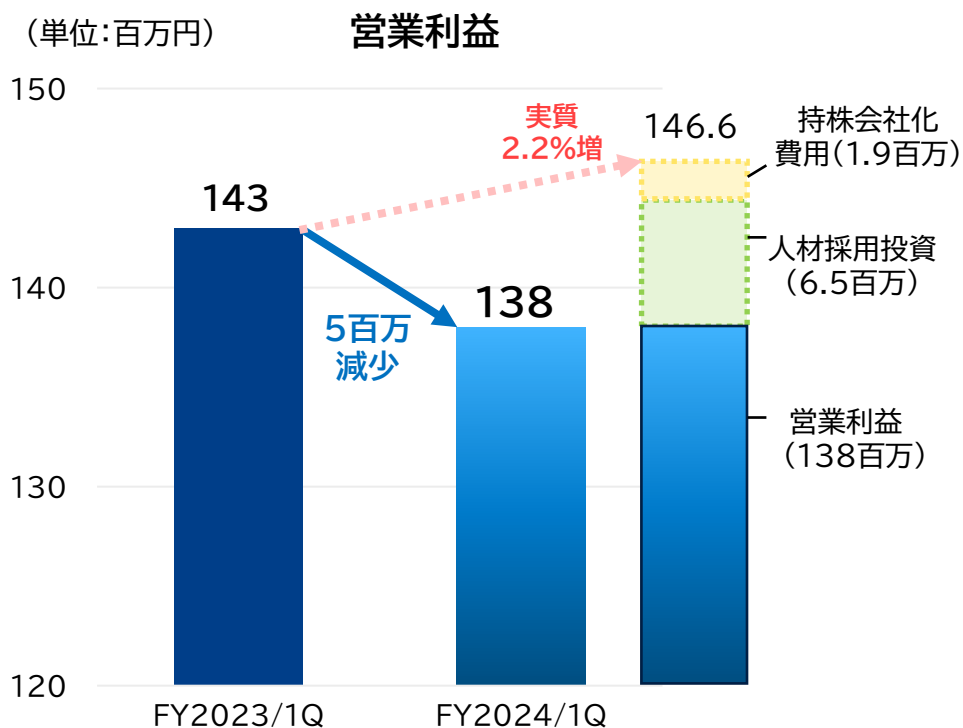
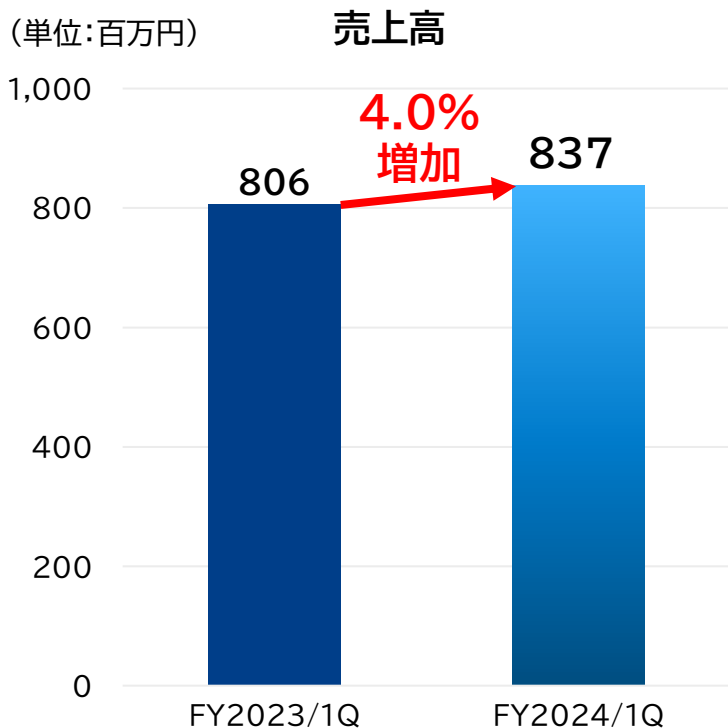
- 人材採用を強化。2024年4月入社の新卒者数は20名(前期比2.2倍)。
- 持株会社化を含む再編が進行中。6月から連結決算を開始予定。

# 決算概要

2024年9月期 第1四半期

## 過去最高売上高を継続 (過去同四半期比)

売上高	: 8億 37百万円
営業利益	: 1億 38百万円
経常利益	: 1億 38百万円
当期純利益	: 1億 00百万円

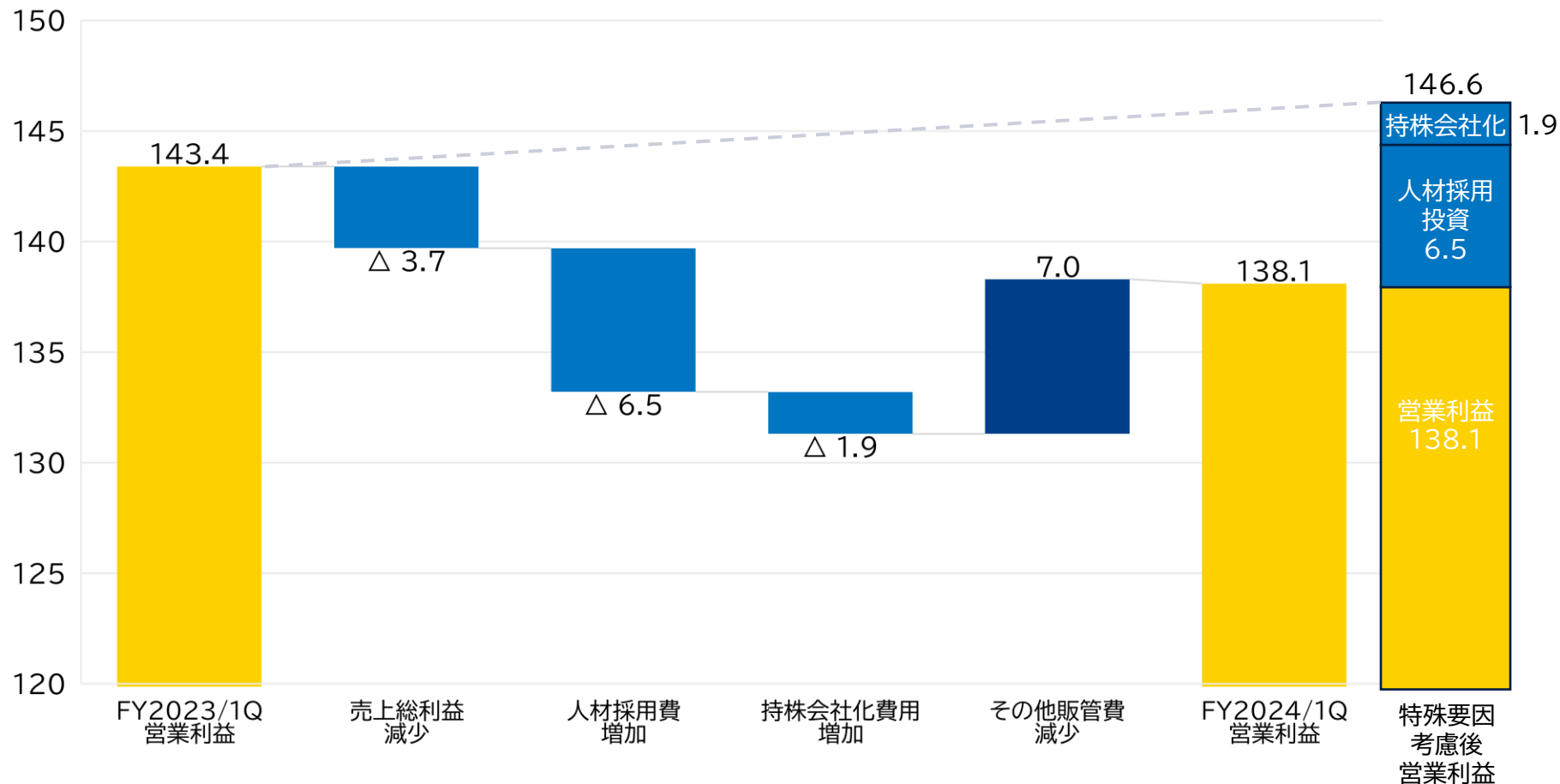


# 営業利益の状況( FY2024/1Q )

人材採用投資と持株会社化の先行投資  
特殊要因考慮後の営業利益は実質2.2%の増益

(単位:百万円)

■ 増加 ■ 減少 ■ 営業利益



# カテゴリー別売上高( FY2024/1Q )

DXソリューションは**13.0%増加**で堅調に推移

(前年同四半期比)

半導体ソリューションは1Qまで半導体製造産業の生産調整の影響が残るものの、2Q以降に回復の見込み

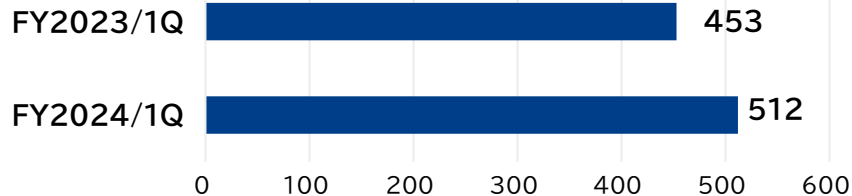
AIソリューションは**2.4%増加**

(前年同四半期比)

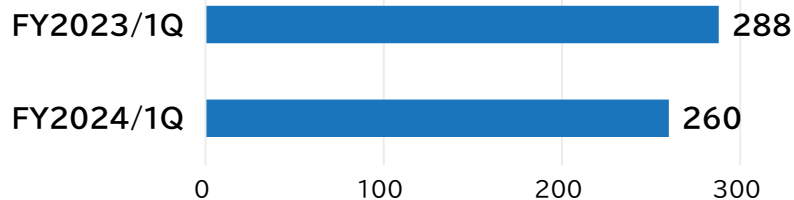
## 売上高(カテゴリー別)

(単位:百万円)

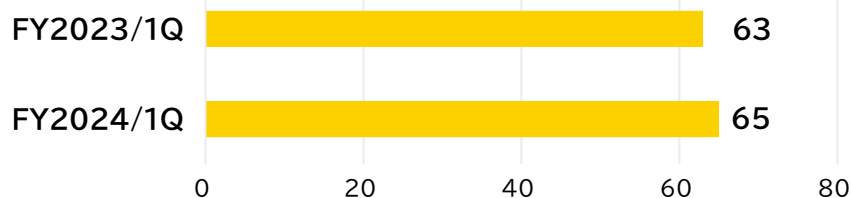
DXソリューション



半導体ソリューション



AIソリューション

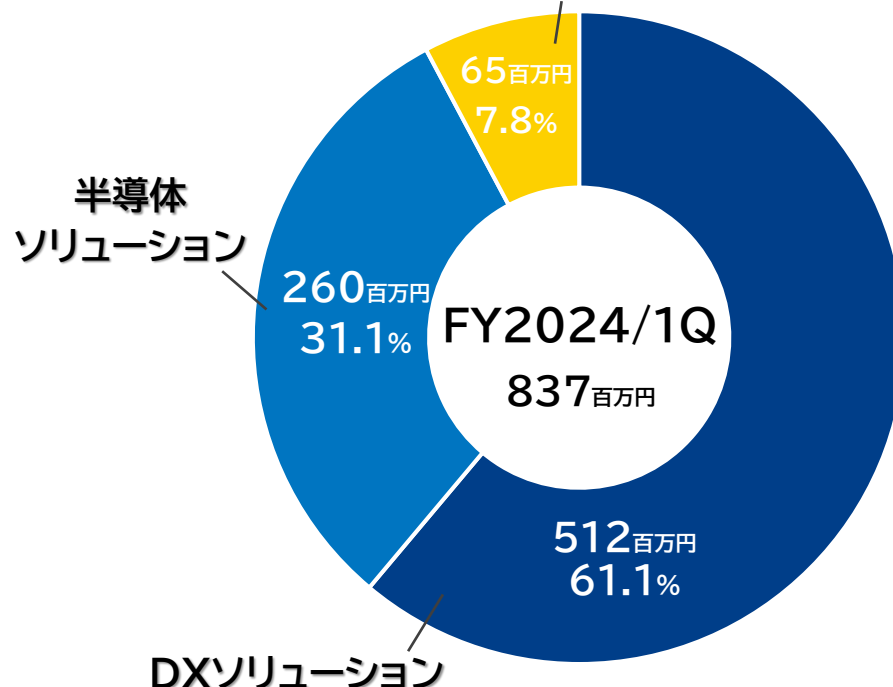


## 売上比率(カテゴリー別)

AIソリューション

半導体ソリューション

DXソリューション



(注) 当社の事業セグメントは単一セグメントです。売上高のみカテゴリー別に集計しております。当期よりカテゴリー区分を変更しております。前年度比較については、前年実績を新カテゴリー区分で再集計し比較しています。

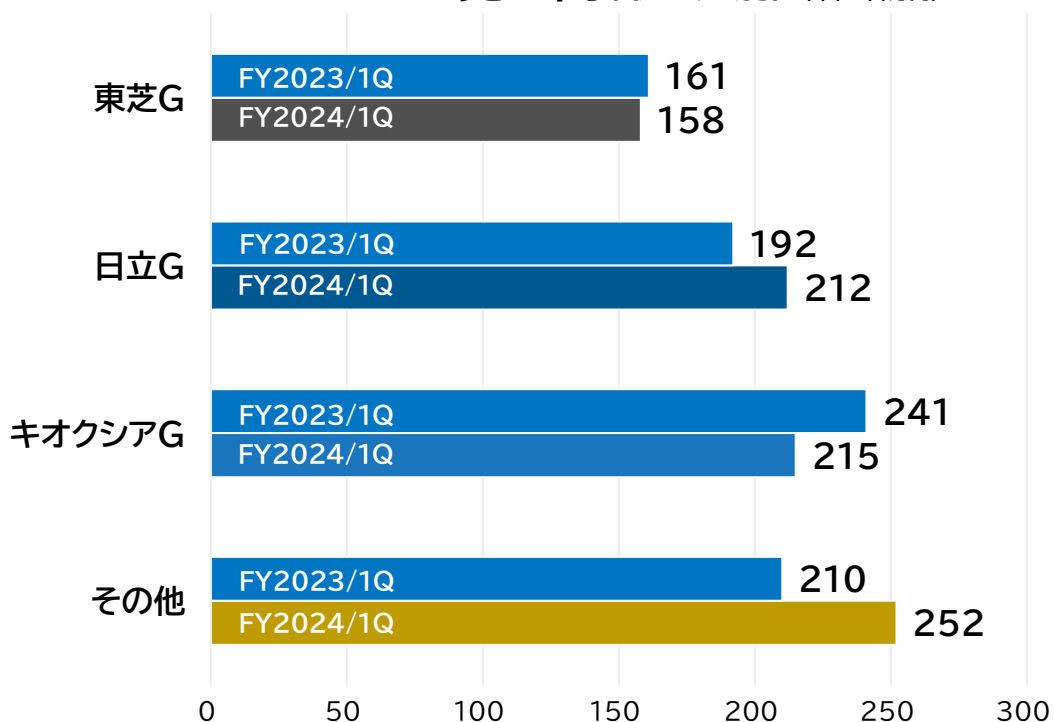
# 取引先別売上高( FY2024/1Q )

**その他取引先** と **日立G** が伸長

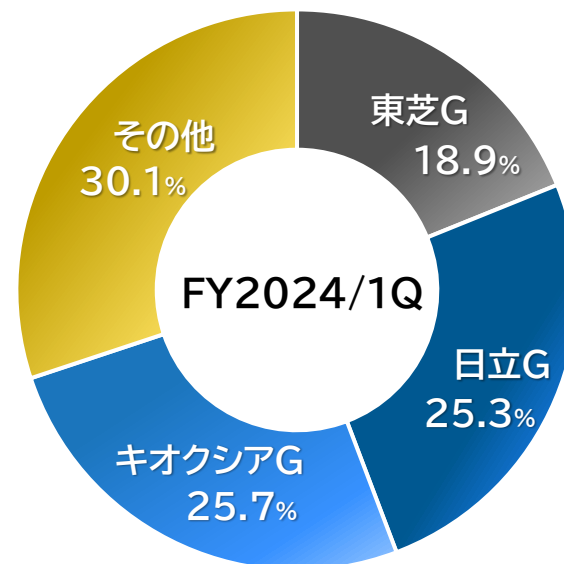
(19.7%増加)  
(前年同四半期比)

(10.5%増加)  
(前年同四半期比)

売上高(取引先別) (単位:百万円)



売上比率(取引先別)





## (全体)主要取引先動向

(2024年4月12日現在)

当社を取り巻く事業環境は引き続き順調に推移する見込み。減少を続けた半導体市況は生産調整がサプライチェーン全体で効果を上げ、成長が回復する見通し。一方、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念、物価上昇、中東地域をめぐる情勢など地政学的リスクへの対応は依然として課題となっています。

### 東芝G

昨年12月20日に株式が非上場となり、新たな経営体制が発足。現在策定中の抜本的な収益改善策や将来に向けた成長戦略による業績の回復が期待されます。

### 日立G

ITサービスを担う「デジタルシステム&サービス」セグメントにおいて、大型事業を中心に受注が堅調に推移。また、生成AI関連の受注も拡大。デジタル需要を背景とした事業拡大は継続する見通しであり、当社への引き合いも引き続き増加が期待されます。

### キオクシアG

フラッシュメモリメーカー各社による生産調整の継続を受けて需給バランスは改善傾向が続いている。需要動向にあわせた生産調整は継続する見通しだが、フラッシュメモリ市場の中長期的な成長トレンドについての見方に大きな変化はなく、今後の回復が期待されます。

### その他

当社はHailo Partners Ecosystemにデザインパートナーとして参画。これを契機にHailoエッジAIプロセッサ向けソフトウェアソリューションの提供を開始しました。Hailo社と密に連携しお客様の要求に応じて参ります。

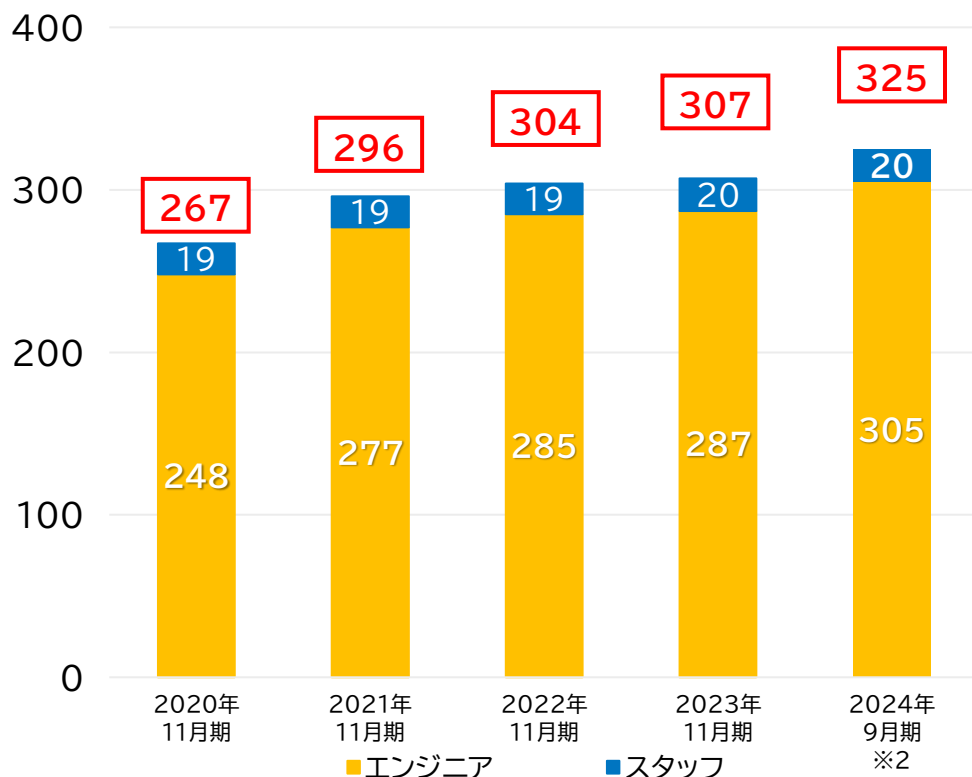
(各社の公表資料、及び新聞報道より作成)

## 2024年9月期は新卒採用を強化 4月1日付で20名が入社

内製化を推進。BP<sup>(※1)</sup>発注件数は減少傾向。

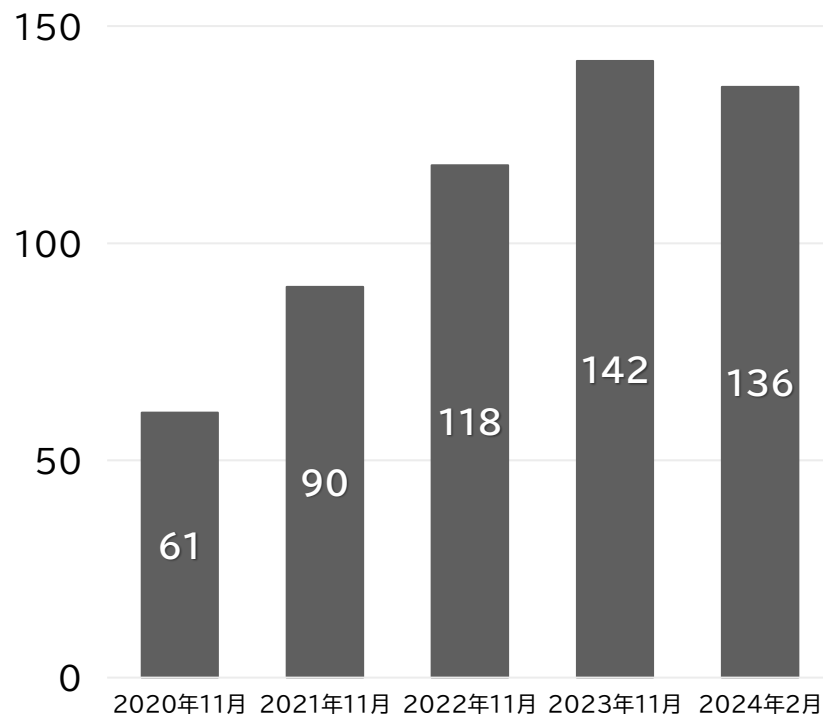
(単位:人数)

### 従業員数 推移



(単位:件数)

### BP発注件数 推移



※1 BP…ビジネスパートナー。業務委託等の形態で当社業務に従事するエンジニア

※2 4/12時点

# 損益計算書( FY2024/1Q )

## 損益計算書( FY2024/1Q )

単位:千円	FY2023/1Q	FY2024/1Q	増減額	増減率
売上高	806,016	837,993	31,977	4.0%
売上原価	559,687	595,460	35,772	6.4%
売上総利益	246,328	242,533	△3,795	△1.5%
販売費及び一般管理費	102,910	104,386	1,476	1.4%
営業利益	143,418	138,146	△5,271	△3.7%
(営業利益率)	(17.8%)	(16.5%)		
経常利益	143,246	138,260	△4,986	△3.5%
(経常利益率)	(17.8%)	(16.5%)		
四半期純利益	100,916	100,743	△173	△0.2%
(四半期純利益率)	(12.5%)	(12.0%)		



## 貸借対照表( FY2024/1Q )

単位:千円	FY2023	FY2024/1Q	増減
流動資産	2,452,145	2,331,064	△121,081
固定資産	164,315	265,136	100,820
資産合計	2,616,461	2,596,201	△20,260
流動負債	395,820	323,462	△72,358
固定負債	57,392	58,477	1,085
負債合計	453,212	381,939	△71,273
株主資本合計	2,163,249	2,214,261	51,012
純資産合計	2,163,249	2,214,261	51,012
負債純資産合計	2,616,461	2,596,201	△20,260

# トピックス

---

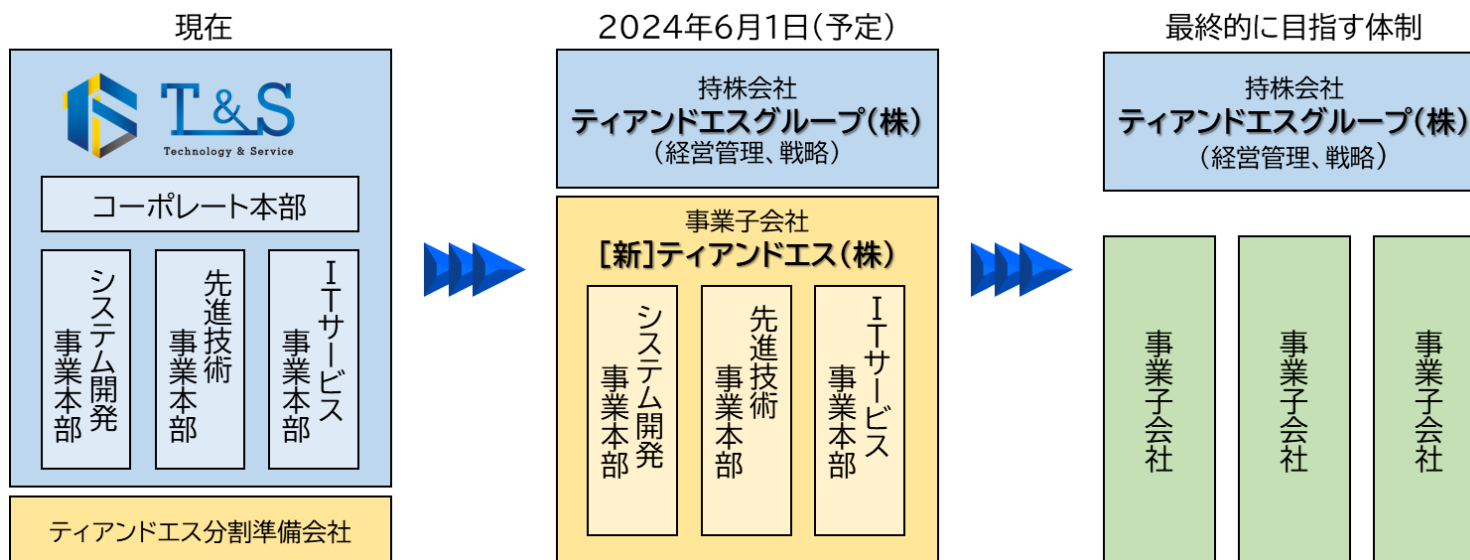
当社は、会社分割により**持株会社体制へ移行**することとなりました。

## 目的

- ✓ 機動的できめの細かい経営の実現
- ✓ 事業会社の独立性の確保
- ✓ 効率的な資源配分
- ✓ 効果的なコーポレート・ガバナンスの実現
- ✓ 新規事業創出
- ✓ M&Aによる事業拡大の実現

## スケジュール

- ✓ 分割準備会社を設立(1/12)
- ✓ 吸収分割契約(1/30)
- ✓ 分割契約承認株主総会(2/28)
- ✓ 吸収分割効力発生日(6/1予定)



(2024年4月12日現在) 14

# 業績予想進捗率

---

2024年9月期 1Q現在

## 決算期変更により2024年9月期は**10ヶ月の変則決算**

(通期業績予想の変更なし)

単位:百万円	2024年9月期 (予想)	2024年9月期 第1四半期(実績)	進捗率(%)
売上高	3,142	837	26.7%
営業利益	588	138	23.4%
経常利益	589	138	23.5%
当期(四半期)純利益	401	100	25.1%

### 全社

すべての事業本部において順調に推移する見通し。既存顧客からの開発案件の引き合いが堅調に推移。費用構造に大きな変化はなく、技術者リソースを補うためBPの利用は継続する見通し。一方で、2024年9月期は新卒採用数を大幅に増加し教育体制を強化。従来通りの中途採用も含め、順次売上への寄与が期待される。

### システム開発 事業本部

主要取引先からの継続案件を中心に堅調に推移する見通し。システム開発後にシステム運用保守に移行する割合が増えており、長期にわたる受注体制を維持できる見込み。中途採用およびBPによるエンジニアリソースを増強し、主要取引先にとどまらない新規案件獲得を目指していく。

### ITサービス 事業本部

半導体工場における生産調整は終息傾向にあり、工場は安定して稼働、市場回復も見込まれ、工場における運用・保守サービスに係るエンジニア人材の供給が引き続き継続する見通し。新卒採用数を増加、将来にわたって成長が期待できる分野へ事業展開を見込み、適切な担い手の確保と育成を積極的に行う。

### 先進技術 事業本部

画像認識AI案件を中心にした既存取引先からの継続案件と横展開を軸に堅調な推移を見込む。前期から開始した生成AI案件や最新AIプロセッサ関連案件の拡大を予定しており、より最新の技術を活かした事業展開を見込む。新規顧客獲得に対しても、前期以上に積極的に注力していく。



# 株主還元

---

## 配当性向は10%を目標とします

### 配当の基本方針

当社は、**将来の成長が見込まれる分野における新しい技術取得への投資を通じて企業価値を向上させる**ことを経営の重要課題と位置付け、これを実現することが株主に対する利益還元であると考えております。利益配分につきましては、企業価値向上を実現するために必要な内部留保の確保を優先しつつ、業績を考慮した適切な配当について継続して実施していくことを基本方針としております。

参考までに2024年1月12日に公表した2024年11月期(決算期変更前)の配当予想は以下の通りです。

	1株あたり配当金	配当性向	自己資本利益率 (ROE)
2023年11月期	6円55銭	10.5%	24.3%
2024年11月期 (予想)	7円00銭	11.0%	20.2%

## お問い合わせ先

ティアンドエス株式会社

経営企画IR部

Email / [pr@tecsvc.co.jp](mailto:pr@tecsvc.co.jp)

URL / <https://www.tecsvc.co.jp/>

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現や将来の業績を保証するものではありません。経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。